

文芸

俳句

家々の灯へだててをりにけり 池田 逸子
 独り居や耳の奥まで日向ぼこ 伊藤 敬子
 孫手引き正月琴平古稀まぢか 今関満喜子
 大晦日時計を止める術はなし 魚地 照子
 村ひとつ静けさにあり三ヶ日 江森 悦子
 一瞬のすべてを無にする大くさめ 川島 通則
 息災を祈りて飲むや年の酒 向後 寛
 年を経て母似の顔の初鏡 越川せつ子
 冬至明け光延ばしてをりにけり 小松 藤男
 前世とか来世とかなり歳の暮 佐瀬 輝夫
 月光を得て色失せし冬の木々 椎名万里子
 農魂に一筋かけて老の春 鈴木とし子
 一年の安否確認年賀状 鈴木 利子
 襷にもくい込む寒さ箱根山 玉虫 栗扇

初日さす眩いほどに奥座敷 土屋美枝子
 心地よき友の冗談初電話 土屋 義昭

横文字もいなせに見ゆる初荷かな 戸村 静華
 恥かしむ杖の一步冬帽子 内藤 くに

初日待つ祈りし言葉とこのえて 西崎さち子
 分け隔てなく照らしたる初日の出 早川 勇

歳晩やもう言ひ訳の種も尽き 藤田 雅夫

短歌

残りたる銀杏大樹の葉を見上げ 溜息つくも落葉掃きゆく 八角 三枝

初雪に山肌染まる湯西川 湯治の旅に趣ふかし 鈴木まさ子

対岸の温泉街の灯火は 日暮と共に浮き立ちて見ゆ 田崎 尚美

バスを降り坂の上なる歯科医まで 上りゆく足遅くなりたり 青木 秀子

葱畝に土寄せするも寒さ増し 白根なかなか上がらずにをり 押尾 輝子

放課後に二十一人の児等を見る 名前幾度呼びかけながら 西山満里子

通過する電車は常のごと行くも 師走の今日は待つ間長かり 芹川 初子

庭に来て一日遊びし子雀は 夕暮なればぱつと飛び去る 平山 芳子

富士山も筑波嶺も見ゆると屋上に 看護師さんは誘ひくれぬ 斉藤つね子

やわらかき冬の陽ざしよ波の上 浮寝にねむる夫婦鴨達 越川 義則

物忘れすること多くなりたれど 木も草も芽を吹き春隣り 高梨 キヨ

歌の道転びて起きて五十年 やがて花咲く春めぐるらむ 土屋 好

苦路悪路遠き道程生かされて 天命なるか九十四の春 伊藤 定男

喜寿米寿祝われ卒寿も有難し まこと生かされ支えられつ、 越川 福子



こうほう 博物館 59

一昔前のカメラ

今では写真を撮るといって、ほとんどがデジタルカメラになり、フィルムカメラは使われなくなりました。確かにデジタルカメラは、撮った写真をすぐ見られることや、携帯電話で転送もでき、また自分でプリントできるなど、便利なカメラである。その便利さと安価になったことにより、この10年余りで急速に普及した。

ここでは紹介するカメラは、今から50年近く前の昭和40年に製造発売された、フィルムカメラである。今もデジタルカメラを造り続けるキヤノンの製品で、それまでカメラは高級で扱いにくいものとされていたが、広く普及させようという開発されたものである。このカメラによって多くの方が写真を撮ることが当たり前のようになつたという。このカメラは町内の方から町に

2月9日から町民ギャラリーで、町内の風景を撮った写真展を開催します。フィルムで撮った写真もあるので、見比べてみてください。

